

新フェローの紹介

五十嵐 日出夫 (いがらし ひでお) 氏

昭和7年2月7日生れ

〔現住所〕北海道札幌市手稲区星置

〔学歴〕昭和29年 北海道大学工学部土木工学科卒業

昭和47年 工学博士(北海道大学)

〔職歴〕

昭和29年 運輸省入省

昭和31年 北海道大学工学部専任講師

昭和33年 同 助教授

昭和50年 同 教授

平成7年 同学定年退官(名誉教授), 北海道学園大学工学部教授

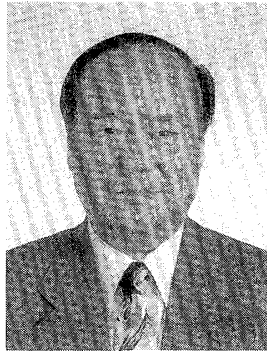
平成9年 同大学院工学研究科長

〔OR学会関係〕OR学会北海道支部設立準備委員, 北海道支部長 平成元年度~平成2年度, 平成2年度春季研究発表会実行委員長, 評議員 平成4~5年度, 支部顧問(現在)

〔著者等〕土木計画数理(朝倉書店)他6冊, 学術論文・発表多数

五十嵐氏は, 交通計画学の専門家であり, その特徴は交通と地域(都市)を車の両輪のごとくとらえ, 常に交通と地域を切り離すことなく一体として分析. 理論と実際の両面から計画を立案して地域社会に提案されている実務家であります。

また, OR学会関係では北海道支部の設立に参画されるとともに, その後も支部運営委員, 支部長, 支部顧問として支部活動の中心となるとともに, 平成4~5年度には本部評議員としても活躍され, 本学会の運営と発展に多大な貢献をされています。



貝川 健一 (かいかわ けんいち) 氏

昭和8年5月14日生れ

〔現住所〕広島市東区牛田旭

〔学歴〕昭和31年 東京大学工学部電気工学科卒業

〔職歴〕

昭和31年 中国電力(株)入社

昭和59年 同社総合企画室第一企画室総合機械化センター所長

平成3年 同社取締役山口支店長

平成5年 同社常務取締役

平成9年 同社取締役副社長

〔OR学会関係〕中国・四国支部長 平成8~9年度

貝川氏は永年電力業界の経営にあたられるとともに, 企業内ORの実施と後進の指導育成に尽力され, 昭和56年には中国電力(株)が本学会第5回実施賞を受賞するなど, 幾多の成果をあげられました。また, 本学会中国・四国支部の運営においても, 支部長として創立40周年記念シンポジウムの開催など, 多大な貢献をされています。



片山 隆仁 (かたやま たかひと) 氏

昭和24年2月3日生れ

〔現住所〕千葉県千葉市花見川区横戸台

〔学歴〕昭和46年3月 大阪大学基礎工学部物性物理工学科卒業

昭和51年5月 ノートルダム大学大学院修士課程修了(MSEE)

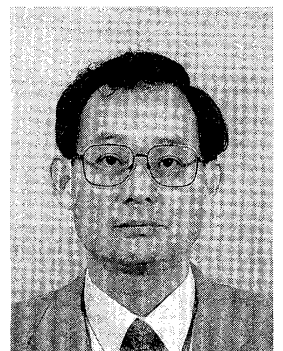
その後平成8年米海軍大学院国際防衛管理課程に短期留学

〔職歴〕

昭和46年4月 防衛庁入庁

昭和62年8月 航空幕僚監部防衛課分析室分析主任研究官

平成3年4月 防衛局計画官付システム分析室主任研



究官

平成6年6月 防衛局計画課システム分析室総括主任
研究官

平成9年1月 航空幕僚監部防衛課分析室長

〔OR学会関係〕庶務幹事 昭和60年度～平成3年度、
編集委員 昭和63年度～平成3年度、評議員 平成6
～7年度

〔著書等〕「暗号」(共訳, 自然社, 1986), 「やり直し
数学基礎」(日本監督士協会, 1989) 他

片山氏は、防衛庁入庁以来今日まで、一貫して防衛
庁においてORを実施する分析組織に在籍され、防衛
力整備計画に代表されるような計画立案のための能力
評価、主要装備品などの機種選定作業等に従事された
ほか、分析技術の向上を図るためのセミナーや講演会
の企画調整、分析組織の増強などに参画されるととも
に、OR学会においても庶務幹事や、機関誌編集委員、
評議員等として活躍され、本学会の運営と発展に多大
な貢献をされています。

木島 正明 (きじま まさあき) 氏

昭和32年3月31日生れ

〔現住所〕埼玉県比企郡小川
町

〔学歴〕昭和55年3月 東京
工業大学理学部情報科学科卒業
昭和60年12月 同大学理工学
研究科情報科学専攻博士課程
修了(理学博士)

昭和61年6月 米国ロチェス
ター大学経営大学院修士課程修了(Ph.D.)

〔職歴〕

昭和61年4月 東京工業大学理学部情報科学科 助手

平成元年4月 筑波大学社会工学系 助教授

平成9年4月 東京都立大学経済学部 助教授

平成9年10月 同 教授

〔OR学会関係〕第18回文献賞 平成2年度、研究普
及委員 昭和63年度～平成元年度

〔著書等〕ファイナンスのための確率過程(共著, 日
科技連), ファイナンス工学入門I部～III部(日科技
連), Markov Processes for Stochastic Modeling
(Chapman & Hall), 他著書3冊, 共監訳1冊, 査読
付き論文60編, 講演多数

木島氏はマルコフ過程の理論とそのORへの応用の
研究に従事され、理論面では再生過程の一般化や単調

性の証明, マルコフ連鎖の初到達時間の分布および確
率単調性の研究, 出生死滅過程の減衰パラメータと準
定常分布の分類などにおいて成果を挙げられています。
また、応用面では信頼性モデルにおける一般化修理の
モデル化や待ち行列における動的スケジューリングの
最適性の証明などの成果を挙げられ、最近では、特に
信用リスク管理を中心としたファイナンス工学の研究
に従事、確率過程の理論を応用して債券の格付けとス
プレッドの変化に関する現象を説明されています。
また、OR学会関係では、平成2年度のOR学会文献賞
を受賞されるとともに永く研究普及委員会委員を努め
られるなどOR学会の運営に多大な貢献をされています。

木村 俊一 (きむら としかず) 氏

昭和28年5月9日生れ

〔現住所〕札幌市西区八軒

〔学歴〕昭和51年 京都大学
工学部数理工学科卒業

昭和56年 京都大学大学院工
学研究科数理工学専攻博士課
程修了(工学博士)

〔職歴〕

昭和56年 東京工業大学理学
部情報科学科 助手

昭和60年 北海道大学経済学部経営学科 助教授

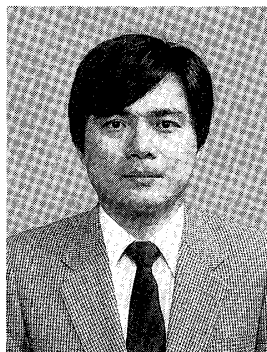
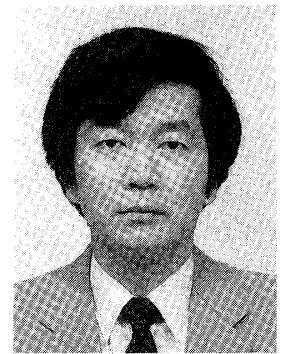
平成7年 同 教授

この間、アムステルダム自由大学客員教授、フンボルト
大学、ロチェスター大学各客員研究員、プリンスト
ン大学客員フェローを歴任

〔OR学会関係〕第20回文献賞 平成4年度、理事
(無任所) 平成7～8年度、北海道支部運営委員 昭
和62年度～現在

〔著書等〕現代OR入門(共著, 現代数学社), 確率
モデルハンドブック(共訳, 朝倉書店), 査読付き論
文24編, その他論文28編, 講演84件

木村氏は、待ち行列理論における拡散近似モデルの
構築と性能評価への応用に関する研究の第一人者とし
て知られています。このほかにも、解析解を求めるこ
とが困難な待ち行列特性量の漸近的性質に着目して、
既存の発見的近似公式を統合・拡張する多くの研究成
果を挙げ、これらの成果に対しては本学会から文献賞
を授与されました。現在は、拡散モデルの精緻化お
よび信頼性解析への応用に関する研究に取り組まれてお
られます。また、本部理事、研究部会幹事、北海道支



部運営委員として、本学会の運営と発展に多大な貢献をされています。

久米 均 (くめ ひとし) 氏

昭和12年2月14日生れ

〔現住所〕東京都世田谷区経堂

〔学歴〕昭和35年 東京大学工学部応用化学科卒業

昭和40年 同大学院化学系研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和40年 成蹊大学工学部経営工学科 助教授

昭和49年 東京大学工学部反応化学科 助教授

昭和55年 同 教授

平成7年 同大学院工学系研究科 教授

平成9年 中央大学理工学部経営システム工学科 教授

〔著書等〕数理統計学 (コロナ社), 統計解析への出発 (岩波書店), 品質による経営 (日科技連出版社), 他28編, 論文139編

久米氏は、大学在学中から一貫してフィールド派の立場で科学的経営の実践的研究を行ってこられた。氏の研究は品質管理を中心とするものであるが、工場における生産計画、サービス部門におけるサービス・パーツの在庫管理など、必要に応じてOR的方法の開発と適用を行ってこられている。氏はFMESの設立に参画し、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本品質管理学会、日本経営工学会が協力して日本学術会議に経営工学研究連絡委員会を設立するために尽力をされ、経営工学関連学会が日本学術会議の場で活動を行う基盤を作ったメンバーの1人であり、本学会の地位向上、発展に多大な貢献をされています。

栗山 仙之助 (くりやま せんのおすけ) 氏

大正14年8月4日生れ

〔現住所〕兵庫県宝塚市御殿山

〔学歴〕昭和22年 大阪府立堺工業専門学校 (現大阪府立大学) 金属工業科卒業

昭和49年 大阪大学工学部産業機械工学科研究生修了

昭和50年 工学博士 (大阪大



学)

昭和53年 経営学博士 (大阪市立大学)

〔職歴〕

昭和22年 松下精工(株)入社, 経営計画部長, 経理部長, 理事等を歴任

昭和46年 大阪工業大学工学部経営工学科 助教授

昭和49年 同 教授

昭和52年 同大学中央研究所計算センター長

昭和60年 大阪工大摂南大学中央研究所長

平成4年 摂南大学経営情報学部教授, 同学部長

平成9年 同 学長

〔OR学会関係〕平成8年度秋季研究発表会実行委員長

〔著書等〕電子計算機経営情報システム研究 (日本経営出版会, 1968), 現代数理科学事典 (共著, 大阪書籍, 1991), 総合経営情報システム研究 (日本経営協会総合研究所, 1995), 他著書18冊, 学術論文81編, その他論文, 総説等98編, 発表多数

栗山氏は、1960年代に松下精工(株)において事務の機械化研究に着手され、電子計算機を用いた企業経営管理システムを開発された。その後、部品中心生産管理システムの研究に着手され、工学博士の学位を、また、経営機械化に関する研究を進められ、経営学博士の学位を併せ取得され、その後も、情報技術の進展に伴いOA, FA, DSS, CIM, SIS, CALS等にもとづく総合経営システムに関する研究を行っておられます。本学会の運営についても、平成8年度秋季研究発表会の実行委員長として多大な貢献をされています。

小池 将貴 (こいけ まさよし) 氏

昭和11年7月21日生れ

〔現住所〕千葉県我孫子市並木町

〔学歴〕昭和38年 東京大学理学部数学科卒業

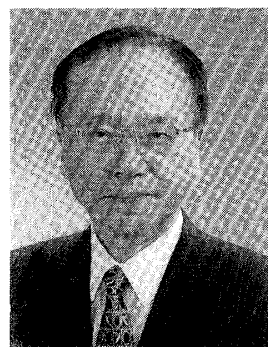
〔職歴〕

昭和38年 三菱電機(株)入社

平成3年 筑波技術短期大学教授

〔OR学会関係〕機関誌編集委員 (昭和47~49年度, 昭和52~53年度, 平成3~6年度), 平成5年度秋季研究発表会実行副委員長

〔著書等〕システム・シミュレーション (共著, 産業図書), コンピュータ マネジメント・サイエンス ハ



ンドブック (共著, オーム社), スケジューリングの理論 (共著, 日刊工業新聞社), OR 事典 (共著, 日科技連), 研究開発・技術開発総覧 (共著, 産業調査会), 他論文多数

小池氏は, 羽田の航空交通管制自動化のための着陸順位決定問題に当時としては斬新な SIMSCRIPT 言語によるデジタルシミュレーションを適用されたり, エレベータ乗客の複雑な到着パターンに対して, 親しい客同士を団子というコンセプトにまとめることを考えつかれ, 団子同士がポアソン到着し, かつ団子 (の大きさから 1 を減じた数値) がポアソン分布に従うことを発見されました。また, 発想法 (KJ 法) に数量化理論を適用して, 多数のアイデアからの有用な着想抽出を自動化する試みをされる等, 企業現場の具体的な問題に対し OR を駆使して解決することを重ねてされましたが, その後は, 聴覚障害者の高等教育の場に移られ, 活躍されておられます。本学会関係でも, 機関誌の編集委員や研究発表会の実行副委員長など, 多大の貢献をされています。

澤木 勝茂 (さわき かつしげ) 氏

昭和19年11月28日生れ

〔現住所〕名古屋市瑞穂区大殿町

〔学歴〕昭和43年 南山大学
経済学部経営学科卒業

昭和46年～昭和50年 カナダ,
ブリティッシュ・コロンビア大
学経営大学院留学 (Ph.D.)

平成9年 工学博士 (京都大
学)

〔職歴〕

昭和49年 南山大学経営学部 助手

昭和50年 同 講師

昭和54年 同 助教授

昭和60年 同 教授

〔OR 学会関係〕評議員 平成4～5年度, 理事 (無任所) 平成5～6年度, 中部副支部長 平成4～5年度, 中部支部長 平成6～7年度, 平成6年度春季研究発表会実行委員長

〔著書等〕OR 入門—意思決定の基礎— (実教出版, 1984), ファイナンスの数理 (朝倉書店, 1994) 他, 学術論文48編, 発表・講演多数

澤木氏は, 永年にわたって不確実性の下での意思決

定過程の数理的分析や, 動的計画法と確率モデルの最適化に関する研究を熱心に続けてこられました。マルコフ決定過程とその応用に関する研究では特に顕著な研究業績をあげておられ, OR の研究・普及に著しく貢献されてきました。また, 最近では飛行機の座席管理に関する研究やポートフォリオ選択モデル, デリバティブなどのファイナンス工学の研究にも取り組まれています。OR 学会関係では, 理事・評議員のほか, 中部支部運営委員, 中部支部監事, 中部支部長などを永年にわたり務められ, 学会の運営・発展に多大な貢献をされています。

司馬 正次 (しば しょうじ) 氏

昭和8年1月11日生れ

〔現住所〕茨城県つくば市梅園

〔学歴〕昭和30年 東京大学
農学部 水産学科卒業

昭和35年 同大学院生物系研
究科水産学専門課程修了

昭和49年 経済学博士 (東京
大学)

〔職歴〕

昭和36年 北海道大学教育学部 講師

昭和42年 同大学産業教育計画研究施設・教育学部
助教授

昭和51年 筑波大学社会工学系 教授

昭和61年 国際応用システム研究所 (IIASA) 主任研
究員

昭和62年 ハンガリー産業省 TQM チーフ・アドバイ
ザー

平成2年 MIT 客員教授, スローン・スクール

平成3年 フランス国立グルノーブル工科大学 客員
教授

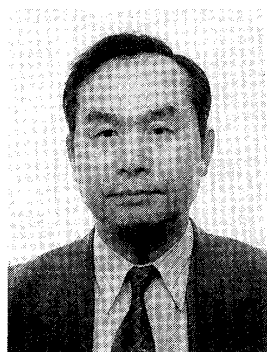
平成4年 MIT 教授 (併任), スローン・スクール

平成8年 常磐大学国際学部 学部長

〔OR 学会関係〕評議員 昭和40～昭和52年度, 平成
2～3年度 理事 (庶務) 昭和52～53年度, 機関誌編
集委員 昭和52～53年度

〔著書等〕オートメーションと労働 (東洋経済), 労働の国際比較 (東洋経済), 教育とコンピュータ (培風館), ANEW AMERICAN TQM (共著, Productivity Press), 他著書26冊, 学術論文36編

司馬氏は, 現実の経営問題, しかも人事・労務・労



働など計量化しにくい領域のOR的分析に取り組み、多くの世界的業績をあげられた。また、OR、QCなどの科学的問題解決法を産業、社会の中に普及定着させていく領域で理論、実践面で多くの功績をあげてこられた。そのひとつはハンガリー産業省のもとでのTQM導入でIIASA—司馬賞として現在にまで続いている。また、米国モスバック—商務長官の依頼による米国での活動では、米国、ヨーロッパの企業102社のトップ・マネージメント、29大学のビジネス・スクール等をつなぐ相互学習のネットワークづくりに成功され、米国産業の再活性化に大きく貢献したと評価されている。また、OR学会関係では北海道支部の創立に当り中心的役割を果たされ、さらには本部評議員、理事として学会の運営と発展に貢献されています。

住田 潮 (すみた うしお) 氏

昭和24年6月29日生れ

〔現住所〕新潟県南魚沼郡大和町

〔学歴〕昭和48年3月 慶応義塾大学工学部管理工学科卒業

昭和48年4月 慶応義塾大学工学部管理工学科修士課程入学

昭和51年9月 同大学工学部管理工学科修士課程中退

昭和53年6月 ロチェスター大学経営大学院修士課程修了

昭和56年6月 同大学院博士課程修了 (Ph.D.)

昭和62年 理学博士 (東京工業大学)

〔職歴〕

昭和49年9月～昭和51年6月 米国ニューヨーク州ロチェスター市、Xerox社に勤務 (財務・システム・アナリスト)

昭和55年9月 マサチューセッツ工科大学 (MIT) 客員研究員

昭和56年9月 米国ニューヨーク州シラキュース市シラキュース大学工学部 助教授

昭和57年7月 ロチェスター大学経営大学院 助教授

昭和62年4月 同大学院、准教授

平成3年7月 国際大学大学院国際経営学研究科教授
ロチェスター大学経営大学院客員教授 ニューヨーク大学経営大学院客員教授

平成7年7月 国際大学国際経営学研究科、研究科

長・教授 現在に至る

〔著書等〕日本語の著書に「Do You Understand? : 内から見たアメリカ」(同時代社)、その他講演、論文発表等多数

住田氏は、アメリカのロチェスター大学サイモン・スクールで学位を取得された後、マサチューセッツ工科大学客員研究員、シラキュース大学助教授を経て、出身大学のサイモン・スクールへ移られ、ラグエー変換法を基礎に、応用確率論・待ち行列理論の分野で新しい計算アルゴリズムを開拓。理論的論文を数多く発表される一方、GTE、NTT等を対象に情報システム関連のコンサルタントとしても幅広く活動され、生産システムや情報ネットワークの性能評価に関する論文も多数発表されています。アメリカOR学会応用確率・確率過程論分科会による1980年代の研究生産性世界ランキングでは3位にランクされたこともあり、1987年、東京工業大学より理学博士を授与されました。住田氏は国際大学への勤務をきっかけに、日米比較を中心とした経営・組織論へと研究分野を広げ、グローバル・リーダー育成のためのビジネス教育・研究プログラムの体系化に取り組み、日経ビジネスをはじめ、金融機関紙等に執筆を行う一方、地元新潟や東京・関西地区を中心に講演活動も精力的に展開され、本学会の普及に貢献をされています。

藤重 悟 (ふじしげ さとる) 氏

昭和22年8月27日生れ

〔現住所〕大阪府吹田市桃山台

〔学歴〕昭和45年 京都大学工学部数理工学科卒業

昭和50年 同大学院工学研究科博士課程数理工学専攻修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和50年 東京大学工学部計数工学科助手

昭和51年 同大学専任講師

昭和54年 筑波大学社会工学系助教授

昭和63年 同 教授

平成9年 大阪大学大学院基礎工学研究科教授

〔OR学会関係〕研究普及委員 昭和51～52年度、機関誌編集委員 昭和52～53年度、論文誌編集委員 昭和63～平成元年度

〔著書等〕グラフ・ネットワーク・マトロイド (産業



図書, 1986) (共著), Submodular Functions and Optimization (North-Holland, 1991), 離散数学 (岩波講座応用数学, 基礎12) (1993) ほか著書 3 冊, 査読つき論文70編

藤重氏は, ジャンプマルコフパラメタを有する確率的システムの推定と制御に関して学位を取得後, 東大(当時)の伊理正夫先生の指導のもとにグラフやマトロイドなどの組合せ的システムの研究を始めて以来, マトロイド構造やより一般的な劣モジュラ構造を有する離散システムの解析と最適化の研究を続けておられます. 特に, 上記の英文著書は, 劣/優モジュラ関数によって表現される劣/優モジュラ・システムの双対理論を展開し発展させてきた氏の研究成果を中心にまとめられたユニークで貴重なモノグラフであり, 関係する組合せ最適化問題の理論とアルゴリズムが統一的に見通しよく論じられており, 世界中で広く読まれています. また, OR 学会関係では機関誌, 論文誌編集委員等を通じて学会の運営と発展に多大の貢献をされています.

松田 寿子 (まつだ としこ) 氏

昭和14年12月28日生れ

〔現住所〕東京都武蔵野市吉祥寺

〔学歴〕昭和37年 北海道大学理学部数学科卒業

〔職歴〕

昭和37年 日本アイ・ピー・エム(株)入社, データセンター, その後製品計画, 東京基礎研究所, 公共事業営業推進本部副部長等を歴任

平成5年 中央大学経済学部教授

〔OR 学会関係〕研究普及委員 昭和55~57年度, 機関誌編集委員 昭和58~62年度, 評議員 昭和63~平成3年度, OR 事例集編集委員 平成2~3年度

〔著書等〕計量広告学入門 (共著, 誠文堂新光社), 世界計量モデルによる相互依存関係の分析 (共著, 総合研究開発機構), Distributed Environment (共編著, Springer-Verlag), 21世紀を展望した運輸技術施策 (共著, ぎょうせい), 他

松田氏は, 意思決定支援システムのあり方について, 数理的な方法論と併せてコンピュータの技術革新を見据えながら情報科学的な側面を考慮して総合的に考察すること, その上でシステム科学の視点から対象を分

析することによって, 実際に現場で役立つ OR の研究をされています. また, OR 学会関係では研究普及委員, 機関誌編集委員等を, さらに評議員として学会の運営と発展に多大の貢献をされています.

山田 善靖 (やまだ よしやす) 氏

昭和16年8月11日生れ

〔現住所〕東京都杉並区和田

〔学歴〕昭和40年' 東京工業大学工学部経営工学科卒業

昭和42年 同大学大学院理工学研究科経営工学専攻修士課程修了

昭和46年 同大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和46年 (株)野村総合研究所入社

昭和53年 同研究所主任研究員

昭和54年 産業能率大学経営情報学部 助教授

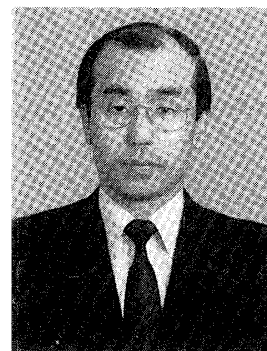
昭和60年 同 教授

昭和62年 東京理科大学理工学部経営工学科 教授

〔OR 学会関係〕研究普及委員 IAOR 委員 昭和60~61年度, 理事 (編集) 昭和62~63年度, 財政問題検討委員会委員 昭和62~63年 平成7~9年度, 表彰委員 昭和62~63年度, 評議員 平成4~5年度, 理事 (庶務) 平成7~8年度, 会員増強委員 平成8~9年度, 会員名簿刊行委員長 平成7年度

〔著書等〕経営情報学のための微積分 (編著, 共立出版), 現代経営情報学概論 (共著, オーム社), オペレーションズ・リサーチII (共著, 朝倉書店), 他共著 3 冊, 監訳 1 冊, 査読つき論文29編, その他15編, 発表多数

山田氏は OR が経営の重要な意思決定に役立つには, どのような OR 研究が必要かを常に考えてこられ, 具体的には20年ぐらい前から OR の実施問題研究を行ってこられ, そうして経営科学としての OR の研究に発展させてこられました. 一方経営情報と OR の関係の研究にも発展させ, 日本の経営の特徴を生かした OR として, 集団意思決定の研究, さらに最近では DEA や AHP を集団意思決定支援に利用する方法を研究され, 多数の論文を発表されています. さらにこれらの研究が実際に企業の重要な意思決定に使われるために, OR 手法の改善についても研究をされています. また,



OR学会関係では、研究普及委員、機関誌編集理事、表彰委員、評議員、庶務理事など永年にわたり学会の運営と発展に多大な貢献をされています。

朴 淳達 (Park Soon-Dal) 氏

昭和14年8月10日生れ

〔現勤務先〕 Dept. of Industrial Eng. College of Eng. Seoul National University Seoul, Rep. of Korea

〔学歴〕 昭和37年2月 Chosun University 卒業 (数学専攻)
昭和46年8月 University of Cincinnati 大学院修了 (Ph. D. in Game Theory)

〔職歴〕

昭和45年7月 Researcher, Institute of Management and Operations Research, Ruhr-Universitaet, Germany

昭和47年1月 Senior Researcher, Dept. of OR/SA, ADD, Korea

昭和50年2月 Professor, Dept. of Industrial Eng., Seoul National University

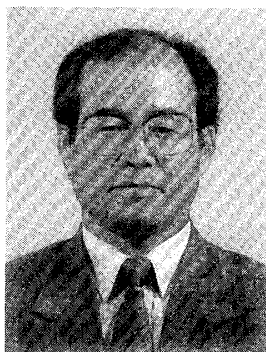
〔OR関係の主な活動〕

昭和51年6月 Korean OR/MS Society (KORS) の創立に参画

昭和51年6月～55年8月 同学会の Secretary

昭和52年1月～63年10月 IFORS の EDCOM (Education Committee) 委員

昭和54年4月 The Pacific Conference on Opera-



tions Research, Seoul のプログラム委員長および Editor

昭和56年8月～58年10月 KORS 副会長

昭和60年10月～63年8月 第1回 APORS 大会組織委員長

昭和63年10月～平成2年12月 KORS 会長

〔著書等〕 著書21冊, 論文123編, インターネット上で公開されている LP のプログラム LPAKO および LPABO の作成者

朴氏はソウル大学校産業工学科および韓国の OR/MS 学会 (KORS) を活躍の本拠地とされているが、日本 OR 学会の永年の会員で、韓国 OR/MS 学会の創立にも貢献されておられます。また同学会の庶務理事を務められるとともに、副会長・会長の要職も歴任され、アジア地域 OR 学会の国際大会開催には先導的役割を果たされ、昭和54年にはソウルで第1回の大会を開催し、プログラム委員長を務められました。このシリーズの大会は翌年にはバンコクで、また昭和57年にはシンガポールで開催されました。一方、伊理正夫氏が IFORS 副会長として、同連盟の意向を受けてアジア太平洋地域の OR 学会の連合組織 (現在の APORS) の結成を呼びかけられた昭和58年当時 KORS 副会長であった朴氏は、大同団結して同組織を作ることに尽力されるとともに、昭和63年の第1回 APORS 大会の組織委員長を自ら務められ、素晴らしい大会運営をされました。その後も、福岡で開催された APORS 大会に若手研究者を派遣して共同研究の成果を発表されるなど、APORS の発展に多大な貢献をなされました。

IFORS99のご案内

3年ごとに開かれる IFORS の第15回大会が、以下の日程で開催されます。

大会テーマ：OR-Parallel roads to prosperity in the 21st Century

開催日程：1999年8月16～20日

開催場所：中国北京市

大会の案内状 (発表申込みの詳細等が掲載) は学会事務局にあります。ご希望の方はご請求ください。また、大会の WEB サイトは、<http://www.IFORS.org/leaflet/triennial.html> です。

提出期限：1998年11月30日 (郵送/FAX), 1998年12月31日 (WWW/電子メール)

提出書類：論文タイトル, アブストラクト (英語のみ, 50語以内), 著者名 (発表者を明示), 所属, 連絡先, トピックス番号, 100米ドル (Visa カードまたは, IFORS 宛ての小切手)

提出先：Ms. Loretta Peregrina, IFORS Secretariat, Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario, London, Canada N6A 3K7, E-mail : IFORS@Ivey.uwo.ca